

令和6年 第11回 伊丹市教育委員会 臨時会 会議録

1. 日 時 令和6年7月12日（金）午後2時00分～午後3時30分

2. 場 所 伊丹市総合教育センター 2階 研修室

3. 出席者 <教育委員会>

教育長	太田 洋子	教育委員	二宮 叔枝
教育委員	村上 順一	教育委員	瀧川 光治

<事務局>

教育総務部長	宇谷 敏幸	学校教育課長	二宮 啓二
学校教育部長	廣重久美子	学校教育課主査	金丸 希
こども未来部長	馬場 一憲	学校教育課主査	寺井 浩治
生涯学習部長	藤澤 早苗	学校教育課主査	坂本 泰朗
教育DX推進室長	伊藤 公男	学校教育課主査	大波 智博
学校教育部副参事		教育政策課長	西原美絵子
兼中学校給食センター所長	鴨川 憲之	教育政策課	田尻 純子

<教科書図書選定委員会>

伊丹市立義務教育諸学校等教科用図書選定委員会委員長	戸田 登代美
伊丹市立義務教育諸学校等教科用図書選定委員会副委員長	片山 尚
伊丹市立伊丹高等学校教科書用図書選定委員会委員	古谷 勇行

4. 欠席者 教育委員 西岡 奈美

5. 傍聴人 14名

6. 議 事

(1) 開会宣言 太田教育長（午後2時00分）

(2) 日程報告 太田教育長より次のとおり会議を進める旨の発議があり、全委員はこれを了承。

日程第 1 議案第41号の審議

日程第 2 議案第42号の審議

(3) 議案第41号の審議（日程第1）

太田教育長より「令和7年度（2025年度）使用伊丹市義務教育諸学校等教科用図書の採択について」を議題とする旨の発議の後、「伊丹市義務教育諸学校等教科用図書選定委員会の答申に基づき、教科用図書を採択しようとするものです。」との説明がなされ、学校教育部長より補足説明があり、全委員一致で、「議案第41号」を可決。

1. 調査研究の方針

「令和 7 年度（2025 年度）使用伊丹市立学校教科用図書の採択方針」に基づき、中学校、特別支援学級及び特別支援学校教科用図書（学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書）について各学級・学校の実情に応じて、調査研究を行い答申することとした。

2. 令和 7 年度使用教科用図書調査研究の観点

- (1) 客観的に検討し、各教科用図書の特色を公平に記述すること。
- (2) 基礎的・基本的な内容の確実な定着が図れるような工夫があること。
- (3) 「主体的・対話的で深い学び」に関して取り上げられている内容について分析すること。
- (4) 学んだことを、実際の社会や生活に生かすことができるような工夫があること。
- (5) 児童生徒の生活体験や興味・関心に適応するとともに、多様な考え方や個人差に応じて活用できる幅があること。
- (6) 系統的発展が考慮されており、他の教科との関連がよく考えられていること。
- (7) 指導内容及び組織排列・分量が適切であること。
- (8) 男女共生の視点からみて適切であること。
- (9) 表現、さし絵、資料、取り扱う題材等が適切であること。① 客観的に検討し、各教科用図書の特色を公平に記述すること。
- (10) 新出文字、用語等の配置の工夫がなされ、文字の大きさ、行間及び書体が適切であること等、ユニバーサルデザインに関する配慮がされていること。
- (11) QR コード等の活用により、一人一台端末を活用することができること。

3. 令和 7 年度使用学校教育法附則第 9 条による一般図書調査研究の観点

- (1) 系統的に編集されており、各教科の主たる教材として、各教科の目標達成に適したものであるか。
- (2) 上学年で使用することになる教科書との関連性があるか。
- (3) 児童生徒の障害の種類・程度・能力・特性に応じたふさわしい内容（文字、表現、挿絵、題材等）であるかどうか。
 - ア 知的機能に障がいのある児童生徒にも理解しやすく、ねらいのはっきりした内容であるか。
 - イ 集中力の乏しい児童生徒にも、理解しやすい文章や挿絵であるか。
 - ウ 情緒に障がいのある児童生徒が落ち着いて楽しめる構成、内容であるか。
 - エ 視力や視機能に障がいのある児童生徒にとって、文字や絵の大きさ、行間の広さ、色彩などが、認識しやすいものであるか。
 - オ 聴覚に障がいのある児童生徒が、視覚によって言語発達を促すために役立つ内容であるか。
 - カ 言葉を有しない児童生徒の言語理解を育て、表出言語を引き出させる内容であるか。

キ 肢体不自由の児童生徒が取り扱いやすく、かつ、破損しにくい紙質、版型、装丁であるか。

- (4) 基本的な生活習慣が身につく内容であるか。
- (5) 児童生徒の生活経験を広げ、興味・関心を喚起する内容であるか。
- (6) 児童生徒の主体的な活動を促す内容であるか。
- (7) 教科書無償給与予算の関係から、価格が妥当と考えられるか。

4. 答申の内容

中学校教科用図書について、上記の観点に基づき調査研究がされており、別紙に掲示された教科書につき、選定委員会所見として、下記に記した教科書を「採択することがふさわしいと判断する。」との報告がされた。

＜選定委員会所見＞

- | | |
|------------|-------------------------|
| ① 国語（国語） | 「東京書籍」から「光村図書出版」へ採択替え |
| （書写） | 「光村図書出版」の継続使用 |
| ② 社会（地理） | 「帝国書院」の継続使用 |
| （歴史） | 「東京書籍」の継続使用 |
| （公民） | 「日本文教出版」の継続使用 |
| （地図） | 「帝国書院」の継続使用 |
| ③ 数学 | 「啓林館」の継続使用 |
| ④ 理科 | 「啓林館」の継続使用 |
| ⑤ 音楽 | 「教育芸術社」の継続使用 |
| ⑥ 美術 | 「日本文教出版」から「光村図書出版」へ採択替え |
| ⑦ 保健体育 | 「大日本図書」から「東京書籍」へ採択替え |
| ⑧ 技術 | 「東京書籍」の継続使用 |
| ⑨ 家庭 | 「開隆堂」から「東京書籍」へ採択替え |
| ⑩ 英語 | 「三省堂」の継続使用 |
| ⑪ 特別の教科 道徳 | 「東京書籍」の継続使用 |

次に、特別支援学級の教科書について、上記の観点に基づき調査研究がされており、別紙に掲示された教科書につき、選定委員会所見として、「特別支援学級に関する調査員会の調査研究結果が適切なものであると認め、令和7年度使用教科用図書として採択することがふさわしいと判断する。」との報告がされた。

さらに、特別支援学校の教科書について、上記の観点に基づき調査研究がされており、別紙に掲示された教科書につき、選定委員会所見として「特別支援学校（小学部、中学部、高等部）に関する調査員会の調査研究結果が適切なものであると認め、令和7年度使用教科用図書として

採択することがふさわしいと判断する。」との報告がされた。

質疑応答

瀧 川 委 員

中学校社会科地理について、見方・考え方の視点が示されているとのことだったが、近年では他の教科も含めて教科書に増えているのだろうか。全体的であるか、地理が顕著であるか、所感はどうか。

戸 田 委 員 長

全教科増えている所感である。生徒に見方・考え方を示しながら考えさせる、といった教科書の作り方になっていると思われる。

村 上 委 員

中学校国語科について、今回希望の光村図書について拝見したところ、良いと感じる点が多くあった。まず、思考の地図というものがあり、実際の学び方が系統立っているため、説明にあったように見通しを持って学べると感じた。また、感情曲線というものは生徒にとってわかりやすいと思う。次に、古典のバランスについても、そのような捉え方も必要だと考えた。さらに、今回特に語彙ブックがあることによって、これまで知らなかった言葉・言語を幅広く獲得でき、それが自己表現に繋がっていくため良いと感じた。加えてSDGsの達成すべき目標の表記や、情報活用によるQRコードの記載があり、生徒たちは非常に使いやすいただろうと感じた。

二 宮 委 員

中学校数学科について、答申書の調査研究内容に「生徒の生活体験や興味関心に適応する」とあるが、どのようなことを重視したのか。日常の学校の中で想起させるような、具体的な事例を考慮して採択されたのか。学校の様子も含めて考えられたと思うが。

戸 田 委 員 長

どの教科書も、例えばプラスマイナスについては温度計を使ってみる、トランプで知る等身近なところから授業を進めていくという構成になっている。伊丹市の数学科では、授業の進めやすさではなく、生徒が自分で学習しやすいという観点を大切に選んでいる。啓林館の教科書は、QRコードを読み取ると多くの問題が出題される。発展的な問題を解きたい生徒は難しい問題にチャレンジできるなど、それぞれのレベルに応じて取り組めるところが非常に良いと思っている。

教 育 長

例えば、比例反比例では牛乳の紙パックやトイレトペーパーをリ

サイクルする問題があり、巻末にはランドルト環やデータの活用が記載されている。これから数学科の中ではデータ活用が注視されるなど、新しいものが入っているのがよいと思った。どの教科書もそうだと思うが、特に啓林館が意識されているように感じた。

村 上 委 員

中学校数学科について、教員の指導方針にも生徒の実態にも合っているのは大切な部分だと思う。それに加え、QRコードが多様化している中で、学校でも進んで学習できたり、自宅でも家庭学習を進められたりする点は賛成である。伊丹市の中学生の実態や、指導方針でここに力を入れているためこの教科書を選んだ、といった理由をもう少し詳しくお聞かせ願いたい。

戸 田 委 員 長

アンケートの結果では、自分で課題を見つけるのが難しい実態がある。また、点数は平均点以上の水準だが、「好きか」の問いについて「好き」の回答率が低い。そのため、数学が好きになるような教え方ができるよう、教師目線ではなく生徒が食いついてくるような教科書として選んだ。

二 宮 委 員

中学校美術科においても生徒目線とおっしゃっていたが、どの教科書も見やすく楽しいと思いながら拝見した。教科書から鑑賞や実技にどのように繋げていくことを考えているか。

戸 田 委 員 長

実技については、様々な要素が教科書に書かれており、それを指導者が繋ぎ合わせて指導する。指導者の想像力や独創性を持って指導することができる教科書である。鑑賞については、教科書そのものが鑑賞に向くように作成されている。光や質感などが考えられているため、この一冊だけで、卒業してからでも楽しめるような鑑賞の教材になっている。生徒が手に取って喜ぶ、よい教科書であると考えている。

教 育 長

教科書「を」教える、教科書「で」教える、とはよく使われる言葉だが、技能強化は教科書「で」教える要素が強くなる。先生方が選択した教材と教科書を往還しながら、理論的な部分は教科書を使用して授業を進めていると思う。

村 上 委 員

中学校美術科について。今回、各技法を特化して別冊化されている。

これは一年生から三年生までの教科書としてだけでなく、思い返して使うことができる。美術が好きで続けたい生徒が、もう少しやってみようという気持ちを伸ばせたり、こういった技法があるのかと工夫を重ねたりできるため、技法がまとまっている点が良いと感じた。

中学校保健体育科について、今回巻末にスキルブックがあった。内容が具体的で、授業中だけでなく生徒が自分の生活にも役立てられるような、今後も実生活に活かせるわかりやすい本だと思った。心身や健康について、現代的な課題についてはこれから大切な視点だと思う。先生方から見た今の生徒に必要なと感じられるものについて、これまでの協議の中で意見等があればお聞かせ願いたい。

戸田委員長

特筆すべきものではなく、全部必要である。ただ、これからは依存症や睡眠といった問題も考えていかなければならないと思う。

教 育 長

教科書が新しくなるだけでなく、これからの時代に対応した指導方法へ変えていかなければならない。先日、校園長所長会の中で、「小中連携が大切」「主体的・対話的で深い学びをどうしていくか」というキーワードがあった。今回の教科書は、小学校の先生の意見も聴取して決めたと聞いている。教科書が来年度新しく変わる中で、これまでの教師主体で教える、から子どもたち目線、子どもたちが学ぶことを大切にしながら、各自授業観を転換していく。そのために教科書はそのガイドになっていて、先生方がファシリテートしやすい形になってきており、その点は大きな変革だと思っている。教科書が変わるだけでなく、担当者の授業の進め方、おそらく自由進度学習や反転授業、デジタルコンテンツを使いながら、QRコードもたくさん入っているため、学校教育課を中心としながら進めていただきたい。

(4) 議案第42号の審議（日程第2）

太田教育長より「令和7年度（2025年度）使用伊丹市立伊丹高等学校教科用図書の採択について」を議題とする旨の発議の後、「伊丹市立伊丹高等学校教科用図書選定委員会の答申に基づき、教科用図書を採択しようとするものです。」との説明がなされ、学校教育部長より補足説明があり、全委員一致で、「議案第42号」を可決。

1. 選定方針

(1) 学習指導要領の趣旨に従い、本校における興味・関心、意欲、適性、能力等を十分考慮し、

教育課程実施上最適であるものを選定する。

(2) 各教科ごとに教科書の記述内容の研究・調査を実施し、さらに地域社会等を考慮し、総合的見地から選定する。

(3) 各教科から推薦のあった教科書を、本校の教科用図書選定委員会において再検討を加え、公正を期す。

2. 答申の内容

第1学年の外国語、第3学年の外国語について採択替えを行い、その他の教科については現行の教科書を継続使用したいとの説明がなされた。

質疑応答

二 宮 委 員 国語科について、どういったねらいで短めの評論が多いのか。また、長いものと短いものでどの程度違うのか。

古 谷 委 員 評論が短いと、テーマが多くなる。英語もそうだが、硬めの文章に抵抗がある生徒が多いため、数を多くこなすことができる。評論が長いと単調になってしまうことがあるが、短くすることで様々なテーマに触れることができ、知識も広がることがねらいである。

二 宮 委 員 文章を書く際には字数制限があると思うが、生徒はどの程度書く必要があるか。

古 谷 委 員 学年にもよるが、一年生であれば800字程度。三年生になると1,000字を越える文章になる。

教 育 長 グローバル共創科に変わることによって、教科書で変わったことや意識したことはあるか。

古 谷 委 員 教科書でというよりは、別の観点である。補助教材も入れながらだが、多様な問題をみんなで話し合う機会、そこから出てくる新しいアイデア、そのアイデアを使って次はどうしていくか考えることができるような授業を、英語科に限らず様々な科目で考えている。

教 育 長 探求が中心になると聞いているが、これは教科書ではなく、教科を横断的にしているのか。

古 谷 委 員 教科書が実際にあるわけではなく、企業や大学と繋がったりしながら考えて進めていく。普通科は探求に関する業者が入っており、企業が来て諸問題を解決して発表する、という授業になっている。

教 育 長 新しい学習指導要領で、情報のウェイトが上がっているが、学校の中での情報の扱いについての変化や、大学入試について意識されていることはあるか。

古 谷 委 員 情報科の教員が模索している。先日読売新聞にも記載があったが、どこの学校も苦慮している。塾等が出している模試問題に頼ったりしている。

教 育 長 生徒は情報の授業で受験について意識していることはあるか。

古 谷 委 員 特に聞いていない。今は高校の情報科の教員を中心に考えている。

(5) 閉会宣言 太田教育長（午後 3 時 3 0 分）

上記のとおり会議の要旨を記録し、ここに署名押印する。

伊丹市教育長 太田 洋子

伊丹市教育委員会委員 二宮 叔枝